国民所得論講義ノート

伊藤幹夫

平成10年 1月 13日

序

前期は経済原論Ⅰの内容と若干重複する内容を、復習という意味を含めて授業を進める。ただし、内容的に深いものを目指す。後期は、最近20年間のマクロ経済学の展開の中からいくつかのトピックを選んで講義する。具体的には、前期においては、社会会計、所得決定の短期理論・長期理論、消費理論、投資理論、開放経済の理論を扱う。後期になってから、合理的期待形成を含む古典派的マクロモデル、実景気循環理論モデル、新ケインズ派モデルなどを題材に講義を進める。

マクロ経済学Ⅰ（国民所得論）は、伝統的に経済原論の内容を引き継ぐ形で、静学的な国民所得の決定理論を、そしてマクロ経済学Ⅱ（経済変動論）は成長や循環に焦点をあわせて、国民所得の時間的変動を扱う動学理論を、それぞれ講義の範囲としてきた。ところが最近の研究の進展を含めて講義することになると、そうした区別がしにくい内容が多く、経済変動論の授業と内容的に重複する授業をせざる場面が生ずることを、あらかじめことわっておく。

国民所得という数量に代表される、経済の活動水準の決定の仕組を研究するというマクロ経済学は、現在も日々変遷を続けており、現在の学生が学ぶマクロ経済学と２０年前の学生が学んだそれが同じあるはずもない。経済学者によって書かれたマクロ経済学の教科書を時代別にならべてみると、様々な考え方がその時代に支配的だったかもしれないことが読み取れる。時間を経過してのマクロ経済学の教科書の内容にどれだけギャップがあるかに興味のある学生は、図書館で20年前のマクロ経済学の教科書と現在の教科書を比較してみるとよいだろう。（例えば、ダンバーグ/マクドウガル「マクロ経済学」好学社（1976年刊）と中谷巌「入門マクロ経済学」日本評論社（1993年刊）を並べてみるとよい）当然、変わっていない基礎的な記述もあるが、大きく変更されたり、新しく付け加わったりした、記述も多いことに気付くだろう。）

この講義のノートは、インターネット上で、以下のURLで公開される。[1]

http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture/

このURLでは、講義に関する情報（参考文献、課題、過去の期末試験問題）なども公開する予定である。

また、講義についての質問・意見などは以下のアドレスに電子メールで受け付ける。

itomacro@econ.keio.ac.jp

なお、講義ノートは、数式や図などをきちんと載せることで、授業中に板書された数式ををノートできなかった学生諸君への便宜をはかる。しかし、重要な点は、授業において即興的に指摘される。よって、この講義ノートは授業内容のすべてをカバーするものでないことを強調しておく。当然、講義ノートをすべて入手しても期末試験問題が解けるよう

[1] ファイルの形式は、dviとpsである。前者はdvioutやxdviを、後者はghostscriptなどを用意する必要がある。

になるわけではない。[2]

[2]私は、期末試験問題は講義ノートに書かないこと、あるいは講義ノートで記述が薄い部分を中心に出題することにしている。